

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

地球においてスポーツは、成長期における体力の増進や、肉体の健康維持に必要なものとして、教育界、医学界をはじめ様々な分野で推奨されています。

勉強が苦手であっても、音楽などの芸術やスポーツが得意であれば、社会的に認められ職業とすることもできます。

しかし、一つのボールを取り合う競技の国際試合などを見ると、ルールに反して、わざと足をかけたり倒れたり、顔をたたいたり、引きずり倒したりという光景が目につきます。これらを見ると、スポーツマンシップなど、どこにあるのかと思いたくなります。

ある競技のプロの選手によると、外国での試合では、グラウンドへの入場時に、手を振る格好で相手の急所をたたいたり、胸を打ったりすることが良くあったということです。

日本では、単なるスポーツという競技より、精神を鍛えるものがほとんどです。柔道、弓道、剣道など、すべて“道”を極めるものであり、心・技・体という考え方が根底にありました。特に、弓道や剣道などは、武士道精神を反映したもので、的に当てることや勝つことを重視するのではなく、そこまでの精神的な過程を重視していたようです。

日本も、西洋スポーツという共通の土台で勝負するとなると、相手と同じようなことをするようになります。世界支配をもくろむとされるある勢力は、人類を3S（スリーエス：Sex、Sport、Screen）の虜にすることで操るのだということです。真偽のほどは分かりませんが、納得できるように思います。

スポーツの多くが、勝ち負けにこだわることから、エゴを増大させていることは事実です。しかし、これは、ある部分の限られたエゴであり、耐性につながるから地球上で必要な部分でもあります。また、肉体と精神との関係を分析し、より良い結果を起こすための精神修業にもつながり、精神的にも大きく成長する人がいることも確かでしょう。

少なくとも、「生命の科学」を学習する私たちは、素材の本質を的確に判断するとともに、己との戦いや精神修行としてのスポーツに徹したいものです。

“言葉に注目”

<…誰も自分の信念を捨てたい変えたいする必要はありません。>

by アダムスキー『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

この前段に、「私は目下『生命の科学』講座を設ける準備をしています。・・・いかなる精神科学とも異なるでしょう。・・・友星人が現在の進化の状態に達したのはこの生命の科学によるのです。しかしこのために・・・」という文章が入ります。そして、この次に、「それはちょうどエンジニアになろうとして勉強している人が自分の信念を捨てる必要がないのと同じです。」と書いています。これと類似のことを別の場所でも言っています。つまり、生命の科学によって、自己の目標や信念を変える必要はないと言うのですが、こらは、生命の科学によって、ものの見方、考えか方が変わるのであって、生まれ持った目的の変更ではないと理解できます。

「生命の科学」学習のポイントPart16

今回は、レクチャー1生命の分析の3回目“宇宙の意識と人間の心を一体化させること”という項目です。ここでアダムスキーは、「読者は結果ばかりでなく原因についても同時に研究しているということを今後の本講座全体を通じて知らねばなりません。・・・あなたの研究を完全に知覚するためにはかならず心と意識の両方を用いるようにしてください。」と書いています。これは、結果＝心（心は、意識によって誕生したもので意識の結果物です。）、原因＝意識（宇宙の総ては意識から誕生していますので総ての原因となります。）と解釈し、この両方を用いて楽しい物事を得るといふのです。

しかし、これは容易なことではないと言っています。通常、私たちの思考、外界の観察のほとんどは、結果物である四つの感覚器官の“心”を用いています。これが、普通に行われているルートなのです。誰も、そのことに気づいていません。そこに、宇宙の意識を用いて、宇宙的な衝動を感じなさいということなのです。

宇宙の意識を感じるためには、宇宙の意識を用いなければならないのです。自己矛盾のようですが、真理、真の美、真の生き方など、真実と言われるものは、総て宇宙の意識が肯定している事柄です。これを感じる心、これは誰でも経験しているのですが、単なる心ではなく宇宙の意識と繋がった心なのです。これに気づくことが、重要でありこのポイントです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編16>

“啐啄同時（そつたくどうじ）” これは、卵から雛が誕生する時、雛は内側から体を一周させながら殻をつつき、殻を切り取るようにつついで出ようとしますが（＝啐）、親鳥は外から、それに合わせるように殻をつつく（＝啄）ことで殻が破れ、新しい生命が誕生するということを表した言葉です。この両者のタイミングが一致するからこそ、雛は殻から出られるということなのです。実際は、雛が苦戦しているときに親鳥が手伝うようですが、いずれにせよ、人間の誕生も・・・、実は、“宇宙の意識”と人間もこれと全く同じ関係にあるのです。



Q:「生命の科学」で最も重要なことは？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A: 時々、このようなことを聞く人がいます。この書は、総て重要なのですが、強いて言えば、「宇宙の意識の存在を認め、その意志を感じようとする事。」だと思えます。これ以外にありません。これができれば、宇宙の意識に従った生活が自然にできるようになるでしょう。

書物紹介

『まじめな とんでもない世界』 奥 健夫 著 海鳴社

この書は、サブタイトルに「宇宙に広がる意識のさざなみ」と付けています。しかし、哲学書ではなく、世界の物理学界をリードする論文（量子力学等）に基づくもので、現代の宇宙論的叙事詩と言われるものです。われわれの意識と、この宇宙の存在とが深く密接に繋がっていることを、数式を一切使わずに簡潔に書かれたものです。この書は、宇宙の奥義を科学的視点から説明したもので、「生命の科学」の奥義とも密接につながっていると思われまます。

学習会案内

『生命の科学』学習会あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催！☆8月8日（土）、10月18日（日）、11月21日（土）、平成22年1月16日（土）、3月13日（土）。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

第16号をお届けいたします。筆者は最近、地元の合唱団に入りました。高齢者の集団の中で、若手としてテナーを担当しますが、この年で若手というのは少々抵抗があります。

URL: <http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第16号>

発行日 平成21年7月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

日本には、「子を持って知る親の恩」という諺があります。おそらく、他の国でも同じような諺があるでしょう。

自分が親（子持ち）になれば、親の大切さ、ありがたみ、苦勞などは理解できないということです。これは、言い換えると、“体験しなければ分からない”ということの実例です。

言うまでもありませんが、小学生は、中学生の苦勞が分かりません。中学生は、高校生の苦勞がわからず、高校生は大学生や社会人の苦勞が分かりません。想像することはできるのですが、体験していないから本当のことが分からないのです。これは、すべての分野に言えることで、地球社会の特徴であると言うことができます。

しかし、友好的なスペースピープルの社会ではどうなのでしょう？ 彼らは、地球上に換算して、約2年で成人に達するというのですが、アダムスキーが体験した夫人との再会を見ると、肉体よりも精神的に成人になると解釈できそうです。

スペースピープルは、過去世の記憶を持ち越しているため、体験していないことであっても生活の基本的な部分、例えば、親や他人への尊敬、生まれてきた目的などが理解できるのだと思われます。これは、地球上で言うところの“悟り”の境地からのスタートであり、その上で、その惑星でこそ学べる事柄を、体験を通して学習していくように思います。

おそらく、体験していないことであっても、宇宙の意識に従うことで、自己を最大限に表現できると考える人々ですから、未知の体験の意義が想像でき、理解も早いのだと思われます。

地球上においては、魂のレベルに応じて差はあるものの、過去世の記憶をほとんど持ちこさないことから、何回生まれてこようが、生活の基本的なところから体験を通じて学んでいくようです。これが地球という惑星であり、この繰り返しがいずれは真の理解へと繋がるのだと思います。

“言葉に注目”

<…私たちは、喜んで援助の手を差し伸べて、…知識を伝えようとしている…>

by アダムスキー『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

これは、母船の中での長老の言葉です。アダムスキーを支持する人にとって、これは理解できるものの、目立った支援は見当たらないと思います。彼らは、目立たないように、地球人の自主性を重んじながら活動しているのです。しかし基本は、彼らの知識を喜んで伝えようとしているのです。大変ありがたいことです。これが、彼らが望むようにならないのは、地球人が、「万人の幸福を求めてたがいに平和と兄弟愛でもって生きることを学んで・・・」いないからだということです。何とももったいないことではないでしょうか。私たち地球人も、彼らの支援を受けられるほどに、万人の幸福を求めて生きていきたいものです。

「生命の科学」学習のポイントPart17

今回は、レクチャー1生命の分析の4回目“人間の目的とは何か”という項目です。この前段で、「われわれは何らかの理由または目的を持って生まれたという事実に関して疑問はあり得ません。」と断定して書いています。そして、これが真実でないなら人間が存在する理由はない・・・と言っています。もちろん、それ以外の考え方もたくさんあるでしょう。例えば、目的がなくて存在してもいいだろう・・・とか、創造物側で自由に決められるのではないかと・・・というものです。しかし、ここでは、信じるところからスタートするという「生命の科学」の学び方の基本を厳守しつつ、他の考え方が否定される理由についても考えてみるのです。そのように考えることで、さらに多くのことを知ることができるでしょう。

人間は目的を持って存在している。そして、その目的は、「宇宙の英知の無限の表現」であると言っています。万物は、それぞれに目的を持って存在しています。人間も、ピアノの鍵盤と同じように、それぞれに異なるのですが、「宇宙の英知の無限の表現者」という「父の仕事」を行うという点で共通しています。そのためには、万物のあらゆる現象を理解しなければならないと言っています。宇宙の英知は、万物を創造し、その万物を通して自らを表現し調和ある全体を存在させています。人間は、有限な存在でありながら、宇宙の英知の無限を表現する役割があるということです。ここは、大変重要で奥の深い部分です。

宇宙に“生きる”

<名言格言編17>

“人のふり見て我がふり直せ” これは、古くからの教訓ですが、今の日本に最も欠けていることではないでしょうか。その意味は、他人の行動の善悪を見て自分の行為を反省し、改めるべき点があれば改めるという教えです。戦後の日本は、敗戦による反省から西洋列強に迎合し、追いつけ追い越せで精一杯生きてきました。その結果、西洋の利点と同時に好ましくない考え方も受け入れてきたのではないのでしょうか。自己主張もよいのですが、この背後には自己責任が必要です。これは、他人の非を見て、自己反省するという意味も含んでいるのです。



Q：なぜ、過去世を思い出せないのでしょうか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：これにはいくつかの理由があるようです。思い出したくない過去世もあるでしょう。この場合、自己封印をしてしまいます。また、輪廻転生を知らず刹那的な生き方をしているのも理由の一つでしょう。時には過去世を知らないことが、自己成長に繋がる場合もあるのです。

書物紹介

『聖書の科学』 天野 仁 著 PHP研究所

この著者は、湯川秀樹博士の研究室で素粒子論を研究した科学者です。しかし、宇宙人及び他の宇宙文明を確実視しているということです。そして、自分の体験を聖書のエノクの体験と重ねて書いています。著者は、少年時代にテレパシーで呼びかけられ、その相手と会話しながら地上50m上空を浮遊したというのです。この体験から、エノクは他の惑星に行っていると言っています。終始、聖書を科学者が読むとどうなるかという視点で書かれた驚きの書です。

学習会案内

『生命の科学』学習会あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催！☆10月18日（日）、11月21（土）、平成22年1月16（土）、3月13日（土）、5月15日（土）。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

第17号をお届けいたします。特に最近、地球における「生命の科学」の必要性を強く感じるようになりました。地球人の不幸の元凶は、総て、これを知らないところにあるからです。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第17号>

発行日 平成21年9月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

世の中に“神秘”という言葉で括れるものは数多く存在します。私達人間の英知では理解できないけれど、厳然と存在する驚異的な事象は、すべて“神秘”と呼ばれて良いものでしょう。例えば、“宇宙の誕生”、“生命”、“天体の運行”、“大自然の調和”など色々あるでしょう。しかし、最大の神秘は、何と言っても“意識”ではないでしょうか。

意識というと、何を指しているのか理解できないという人や、人間にだけあると思う人もいますが、意識とは、認識（自覚）できるということであり、他の哺乳類、昆虫、魚などの動物や植物にもあるのです。

ここで、人間の意識を考えてみると、タンパク質や水などで構成される人体の細胞と繋がる形で存在します。これは、個々の細胞に意識があるということと、その集合体としての個体に固有の意識があるという両方を指します。この細胞というのは、まぎれもなく物質に分類されるものですが、そこに繋がるように意識が宿っているのです。

人体を含む動植物の場合は、原因に分類される意識と結果の世界に分類される物質が、同時に同じ場所に一体となって存在するということなのです。

意識があるということは、自分と他者とを認識できるということです。そこには、必ずしも知的な思考という能力を必要としません。そして、宇宙にも、叡知とも呼べる意識が宿っている分けですから、さらに神秘的と言えるでしょう。

しかし、これは、考え方が逆さまで、まず、宇宙の意識が存在し、それにより宇宙とう物質界が生まれ出されたことから、万物に意識があるのだと考える方が正しいでしょう。

宇宙は、宇宙の意識から誕生しましたが、ビックバン理論によれば、最初は、極微小の1点にすぎなかった。そこから爆発が起こり、一瞬にして万物が生まれ出されたということですから、動植物に限らず、当然に万物は意識を持っていると言えそうです。

このことから、宇宙の意識と、私達人間の意識とは基本的に変わらないのです。異なっているのは、私達人間は、肉体に宿るエゴに支配されているということだけなのです。

“言葉に注目”

<…他の人々の指導者になってもらいたい…>

by アダムスキー『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

このことをアダムスキーは、「生命の科学」の研究者に求めているのです。「生命の科学」の研究から、何かを学ぼうとするならば、各人はオープンマインド（寛容の精神）とハッキリとした論理的な考えを学ばなければならないと言っています。この“寛容の精神と論理的な考え”とは、哲学のことを指しています。そして、“あらゆる信念は哲学に基づいている”と哲学が信念の基になるという重要性を書いています。アダムスキーは、「生命の科学」の研究者に、“寛容の精神と論理的な考え”をベースに理解することを勧めるとともに、“他の人々の指導者”になることを強く望んでいるのです。

「生命の科学」学習のポイントPart18

今回は、レクチャー1生命の分析の5回目“人間とは何か”という項目です。ここで初めに、人間の肉体は、他の動物と大差がないと書いています。しかし、人体が、無数の細胞で成り立っているのを見るのことができないとしています。そして、「各細胞は独立した存在ですが、一方共通の利益と人体の維持のために各細胞は他のすべての細胞と調和しています。」とあります。

この“共通の利益”とは、“人間共通の目的の達成”と“あなたの存在目的の達成”の二つであると思われます。その実現を目指し、各細胞は人体の維持を行っているということです。

「しかし人間は人生において果たすべき役割を教えられないために、混乱が生じています。」と書いています。つまり、存在目的を目指し各細胞は調和しようとしますが、人間は、自己の存在目的、役割を教えられないことから混乱しているということです。

人間の共通の目的は、前回、掲載のとおり“宇宙の英知の無限の表現”であると言えます。一方、個人の目的は、過去世から引き継ぐものを含め、あなたの魂が出現した理由でもあり、その“何か”が分かっていないという指摘でしょう。これは、各人が自己の存在理由を求め、日々探求していく必要があるということです。

また最後に、人間の心は、心が結果の産物であることから、現象界（結果の世界）にひかれ、そのためエゴの心が喜ぶ楽しいことを好むが、それは自由意志を強大化させ、人間を自然の産物から分離すると警告しています。ここは、大変に意味深く重要な項目だと思います。

宇宙に“生きる”

<名言格言編18>

“ペンは剣よりも強し” これは、リットンの戯曲「リシュリユー」から出た言葉で、思想や文学の力は、武力よりも強い力を発揮するという事です。これを「生命の科学」の原因と結果の法則より見れば、武力は結果であり、原因は、人の思想等にあることから、思想等に影響を与えることは、結果である武力衝突より大きな影響力があると言えます。



Q：スペース・プログラムとは何ですか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：これは、生前アダムスキーも語っていましたが、彼の高弟も認識していました。具体的には、「地球救済計画」と呼べるもので、エゴの増長した人々を地球へ移住させた、その中間のスペースピープルが行っている活動の事です。地球で、人間本来の生き方を基本から学び直している地球人に、生きる指針を指し示す活動とも言えそうです。実は、オーソンとアダムスキーの活動こそが、正にスペース・プログラムなのです。

書物紹介

『地球のゆくえ』 広瀬 隆 著 集英社

これは、地球がどこへ向かって進んでいるのかを憂いて書かれたものです。この書では、よく言われる世界支配をもくろむ閥の勢力と、世界経済や日本の政治などの関係はかなり詳しく書いています。よくここまで、調べて書いたものだと感心します。どこまで、正しいのかの判断は、読者それぞれにお任せしますが、人類の生きざまを、多角的に理解するには大変良い書物だと思います。地球の未来に興味を持たれる人は、是非、一読されることをお勧めします。

学習会案内

『生命の科学』学習会あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催！☆ 11月21(土)、平成22年1月16(土)、3月13日(土)、5月15日(土)、7月10日(土)。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

第18号をお届けいたします。しかし、何かと忙しいですね。労働者の皆さん、体を書ることがないように留意いたしましょう。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第18号>

発行日 平成21年11月10日
編集発行 国際アダムスキー普及会
栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

地球人が、この惑星にいる理由とは何なのでしょう？ アダムスキーを信じる人ならご承知のとおり、この太陽系の“ならず者”、エゴを芽生えさせた人々を、当時、未開であった地球に連れて来たということです。

そのころの地球は、正にエデンの園であったということです。ここに連れてこられた人々は、いわゆる文明の利器を何も持たずにやって来ましたから、かつて学んできた知識をもとに、自然を教師に生きていくことを期待されていたようです。文字通り、裸一貫で来たというのが正確な表現なのでしょう。

自然界は、言うまでもなく大宇宙の一部であり、正直な存在です。自己繁栄の環境に適しているか否かを体全体で表現しています。自己に適さない状況が存在すれば、自らを縮小し、反対に適した状況が起これば規模を拡大していきます。

このことから察するに、地球へ来た人々は、自分と自然界との関係を一から学ぶため、自己の知識の有効性について体験を通して知り、肉体と精神との関係や宇宙の意識との繋がりを、再認識する必要があったのだと思われます。

食を得るために有効な動植物を探し、育てるという体験を継続しながら、動植物の習性や適した環境を知り、後世に伝えながら進歩を重ねてきました。動植物の習性等を知らなければ、食を得ることもできない厳しい自然環境の中で、人類は歩み続けてきたわけです。

そうすることで、自然界を律する何らかの存在に気づくようになります。それは、自然界の裏に、偉大な英知であり、パワーが存在するということを体験的に認識させることでしょう。これを先人は、“神”と名付けて敬ってきたようです。

そして今日、私たちは、万物の背後に、神に代わって“宇宙の意識”が存在することを学んでいます。しかし、足元を見れば、人類は、まだまだ集団生活における生き方を学び得ていない状況です。加えて、肉体的・精神的な様々な誘惑に打ち勝ちながら、私たちは、宇宙の意識の存在を常に認識できる存在にならなくてはいけないのだと思います。

“言葉に注目”

<自分自身を知れ。そうすればすべてがわかるだろう>

by アダムスキー『21世紀/生命の科学』（中央アート出版社）

これは、アダムスキーが好んで使用していた言葉のようです。かつて、ギリシャの哲人ソクラテスが語った名言として理解する人もいるでしょう。この意味は、真理は自分の外にはなく、自己の内奥に知る者が宿っているから、自分自身を知ることによって真理を見いだせるというものです。しかし、これは大変奥深いことを言っているのです。

当然、自己の内部の“宇宙の意識”と通じ合うことで、あらゆることが理解できるということですが、更に具体的には、自己の細胞の中に多くの体験をしてきた原子が存在し、そこに多くの記憶があるため、そこから学ぶことができるという意味も含まれているのです。

今回は、レクチャー1生命の分析の6回目“現象が生じた理由の分析”という項目です。

初めに、「そこでわれわれはこれまで心がやってきたように、結果を究極の解答とみなさないように、各感覚器官から成り立っている心をまず調整する必要があります。」とあり、続いて、「つまり何らかの結論に達するまでに結果（現象）の生じた理由を忍耐強く分析するとよいのです。」と書いています。このことは、個人的な結果であろうが、他人または他の生命体であろうが同じであると言っています。この部分は、この項目の中心的なところとなっています。

まず、人間界の通常の生き方を見てみると、豊作・凶作、金持ち・貧乏、成功・失敗、困難・容易、美人・不美人など、“結果”に喜怒哀楽の基準を置いています。そして、それが総てとして生きています。これが、現世人類の普通の生き方なのです。

しかし、アダムスキーは、これを究極の回答にはしてはいけないと言うのです。それには、感覚器官（視・聴・臭・味）を、互いに尊敬し合うよう調整する必要があります。そして、何らかの結論に達した“理由”について、自己分析することを強調しているのです。

具体例として、樹木を例にとり、私たちには、樹液という生命の血液は見えない、また、樹木の細胞同士が話している声を聞くことができないが、それは原因であり厳然と存在していると解説しています。ここで、アダムスキーは、結果ではなく、そうになってしまう原因に注目させ、原因とは何かを説明しながら、それを分析することの重要性を説いているのです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編19>

“狭き門より入れ” これは、「新約聖書」マタイ伝第7章にある言葉で、アンドレ・ジッドの小説のタイトルともなった有名なものです。楽な易しい方法を選ぶよりも、苦しく難しい方法を選ぶほうが立派な人間になれるという意味です。これは、単に作業のような労働ではなく、人間性を高められるような行動において真実であると思われまます。アダムスキーを信じて生きる人々は、正に、この実践者であるという気がします。



Q：転生があるなら霊的な現象は何ですか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：確かにアダムスキーは、一部を除いて、人はすべて生まれ変わると言っています。そうならば、霊的現象は起こらないのでしょうか？ 霊的現象とは、人の想念が引き起こしている現象を言うのです。ですから、生霊もあれば死霊もあるのです。死霊とは、生きているときに人が家等の原子に残していった想念波動のことです。これが、災いをもたらすのです。

書物紹介

『われわれはどこへ行くのか？』 松井孝典 著 筑摩書房

著者は、東京大学大学院教授として、また、惑星物理学者として知られています。この書では、われわれとは何か？ 文明とは？ 環境とは？ 生命とは？ について、科学者の立場から簡単に解説しています。本文中で、この地球上の人間圏は、今世紀半ばに破綻する・・・、生命とは何かに答えられない、と言う半面、論理的な帰結として宇宙人の存在を肯定しています。「地球とは何か」を知らないで、“環境問題”を語る現状に警鐘を鳴らす書物でもあります。

学習会案内

『生命の科学』学習会あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催！☆平成22年1月16日(土)、3月13日(土)、5月15日(土)、7月10日(土)、9月11日(土)。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

謹賀新年。第19号をお届けいたします。今年もよろしくお願いたします。本年が、皆様にとって良い年となりますように…。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第19号>

発行日 平成22年1月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

自然とは何でしょうか？ 最近は、頻繁に「自然は大切」、「自然に生きる」とか、「自然を守る」などと言われます。この“自然”とはどのようなことを言っているのでしょうか？

“自然”とは、通常「人間が作ったもの以外のすべてのもの」と考えられ、辞書にもそのように記されています。人間が作ったものは、“人工”のものとして、自然とは区別されています。この考え方は、人間が、自然の産物ではない、自然ではないという考え方に立っています。だから人間が介入したものは、すべて不自然であると考えられるのです。果たして、そうなのでしょうか？

言うまでもなく、人間は、親である人間から誕生しますが、その発祥を考えてみれば、大自然が生み出したものです。大自然が生み出した人間が、自然ではないというのはどういふことでしょうか？

人間は、自ら自然とは分離した生き物であると自覚しているのでしょうか？ それとも、自由意志を持たないように見える自然とは、異なることを誇るおごりなののでしょうか？ いずれにせよ、自然とは別物であると考えているようです。

確かに人間は、自然をコントロールできるとうぬぼれ、自然を理解することなく破壊してきました。そして、常に“人間”対“自然”という対立する構図を受け入れてきました。その意味で、常に自然を第三者的に見る立場にいるということなのです。

人が、意味を理解する辞書において、人間は、自然の一部であるという考え方を否定しています。残念ながら、これでは、いつになっても、人と自然の対立構図は消えることはないでしょう。

ここで断言しますが、自然とは“宇宙の意識が表現されること”であると言えます。人間、ホモサピエンスという種は、紛れもなく宇宙たる自然が生み出したものです。その人間の行為が、“自然”であることが自然なのです。エゴに操られる人間は、不自然であり、辞書どおりとなりますが、宇宙の意識に生きる人間の行為は自然と呼べるものなのです。

“言葉に注目”

<最近異星人から多数の手紙が多数の地球人に送られました。>

by アダムスキー『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

これは、一見、信じ難いことですが、実際に異星人が行ったということです。その理由は、受け取った人の謙虚さとまじめさをテストするためであったということです。手紙の中には、ある人々の弱点や誤解が指摘してあったということです。この種の手紙は、眉をひそめて読んでしまいがちですが、人々の内部に真理が高まって、本人の役立とうという願いが非利己的なものであるなら、その手紙から祝福を感じられるということです。どのような状況であれ、指摘される事柄が事実であるならば、謙虚な人々は真実を理解できるということのようです。このテストは、土星会議で決定したということですから、かなり深い意味があるようです。

「生命の科学」学習のポイントPart20

by アダムスキー（中央アート出版社）

今回は、レクチャー1 生命の分析の7回目“原因と結果を見る訓練が大切”という項目です。

冒頭「そこでわれわれは一つの結果（現象）を見るときに、一体となって現れている原因と結果を見るように自分自身を訓練する必要があります。」と書いています。

われわれが物を見るという行為は、肉眼が結果から結果へと移り動くことです。その時、心は結果物を見ながら原因に気づく必要があるというのです。「心でもって現象が見られ、意識がその原因を洩らすとき、われわれは同時に目に見えるものと目に見えないものを見ます。」と……。この“目に見えないものを見る”という行為、これは、宇宙の意識を感じるということであり、大変重要なことなのですが、誠実でないと見えないものだとしています。

ここで“誠実”というのは、言い換えると、真理に対して素直ということで、宇宙の意識に対して忠実である心を言っています。これが、何よりも重要なことなのです。これがなければ、意識が何を洩らそうと気づくことができないでしょう。

アダムスキーは、“目に見えないものを見る”説明として、家を建てようと計画しているときに例えています。設計図に関して、“一体化した意識と心を用いている”と言っています。そして、経験にしたがって変更を加えるが、そのときでさえ、知っていなかった改良点があることを意識は指摘すると書いています。そして、これが知的発達であると説明しています。つまり、人間の肉体の知能は、意識と一緒に働くことで成長するものであると理解できます。また、経験の重要性を肯定しつつ、宇宙の意識による導きは更に重要であると言っているのです。

<名言格言編20>

“上善は水の若（如：ごと）し” これは、「老子」第8章にある冒頭です。この名を冠した日本酒が有名で、知っている人もいるでしょう。この文の後に、「水は善く万物を利して而も争わず。衆人の悪（にく）む所に処（お）る。・・・」と続きます。最上の善とは、水のようなものであらゆる生物に恵みを施し、しかも自身は争わず人がさげすむ場所で満足しているという。言い換えれば、人への施は、自分をひけらかすことなくひそかに行う。たとえ自分が、さげすまれていようと、それでも満足でいることであると……。大変、奥深いことを言っています。



Q：月に氷はあるのですか？

※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：以前からその存在は推論されてきました。昨年10月、米国月探査機 LCROSS（エルクロス）は、月の南極に近いカベウス・クレーターに、打ち上げ時に使用したロケット部分を衝突させる実験を行いました。その結果、噴出物のスペクトル分析で氷が存在することが確認されました。光の射さない永久氷とのことですが、水の存在を肯定した貴重な事実です。

書物紹介

『リサ・ランドール 異次元は存在する』 リサ・ランドール + 若田光一 NHK出版

本書は、5次元世界の存在を理論物理学で提唱するリサ・ランドール博士と、宇宙飛行士の若田光一氏との対談です。ランドール博士は、SFのような5次元世界を物理学の難問である“素粒子の消滅”を説明する理論として構築したことで注目されています。博士は、「ワープする宇宙～5次元時空のなぞを解く」（NHK出版）で、数式を使わず理論を展開しましたが、読みこなすのはなかなか大変です。本書では、さらに分かりやすく理論を紹介しています。

学習会案内

『生命の科学』学習会あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催！☆平成22年3月13日（土）、5月15日（土）、7月10日（土）、9月11日（土）、11月27日（土）。時間は、すべて午後1時30分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）8階の第1会議室ほか。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

第20号をお届けいたします。先日、スキーに行って、早くも花粉症のような症状となりました。もしかして、黄砂の影響かも……。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第20号>

発行日 平成22年3月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）